2022.12

信州大学 SHINSHU UNIVERSITY | 教育学部 附属長野小学校

１年２組

がんばれ　がんばれ　あさがおさん
～生きてほしい～

わたしたちのお引越しと一緒だよ

自分のあさがおを見て、「根っこが出てきてるから、植え替えた方がいいと思う」と話すＡさん。Ｂさんは、その様子を見て「根づまりだよ」と説明します。Ｂさんは、家でも植物を育てている経験から、根が伸びられなくなってしまう根づまりのことを知っていて、以前も授業の中であさがおが育たなくなる原因の一つとして語っていました。根が土の上まで出てきていることから根づまりだと考えた二人は、あさがおを大きな鉢に植え替えることにします。Ｃさんも加わり、朝の時間に植え替えを完了しました。

起きている変化に気づき、知っていることや友だちの話をもとに考え、どうするかを決めて行動していった姿、すごいなあと思いました。

このあと、Ａさんの他にも根が出てきた人がいました。また、葉が５、６枚になってきたことから「植え替えたい」と話す人、夏休み中の生長やあさがおの持ち帰りも見通して考えたことから、全員であさがおの植え替えをすることにしました。植え替えについてＢさんは、「あさがおは、疲れるんだよ。私たちと一緒」と話しました。すると、「最初に生まれたところなんだから、ここにいたいって気持ちもあるかも」「寂しいかもしれない」「でも、このままではだめだから、頑張るしかない」「自分たちが頑張れば、あさがおも頑張る」「もっと元気になるはず」「わたしたちのお引越しと一緒だよ」と続きました。

植え替えがあさがおにとってどういうことなのかを、自分たちに引きつけて考えていたのだと思います。植え替えは、あさがおを育てるための一つの作業なのかもしれませんが、あさがおに願いをかけて毎日見守り続けている子どもたちにとっては、植え替えが、あさがおと一緒に頑張ることになるのだなと学ばせてもらいました。

鉢を決め、花育アドバイザーの柳澤さんに教わったことをもとに、小石と培養土を入れ、肥料を混ぜて、そこにあさがおさんをお引越し。引っ越しを終えた広い家で、詰まっていた根がまた力強く伸びていくはず。

かれないでほしい　げんきにさいてほしい

一人一人が育てているあさがお。10月も半ばとなり、秋の訪れと共にその様子に変化が見られています。先日のあさがお観察日記には、こんな言葉が綴られていました。

Ｋ：はがすくなくなっているのかな。それに、くきがぐるぐるになってる。
Ｈ：ずーっと１しゅうかんくらい、ぜんぜんさいてないから、もうあさがおがしんじゃったのかもしれない。
Ｋ：あさがおが、さいていませんでした。ふゆになってきたから、あさがおもしんじゃったのかとおもいました。また、うえたい～とおもいました。
Ｔ：わたしのあさがおが、４～５しゅうかんさいていないから、しんぱいでしんぱいでしんぱいです。
Ｉ：あさがおが、花もたねもないようすでした。とてもかなしかったです。そろそろあさがおも、おわりなのかな？とかんじました。また、あさがおの花がさいてほしいな。もっとたねをとりたいな。とったたねは、どうしよう？と、いろいろかんがえながら、あさがおに水をあげました。
Ｇ：はっぱがちゃいろになって、もうすぐじゅみょうになりそう。でも、生きてほしい。

Ｍ：またこんど、かれないでほしい。あと、元気にさいてほしい。はっぱも元気にさいてほしい。
Ｙ：アサガオのつぼみが一つしかありませんでした。でも、そのアサガオのつぼみも、きれいなアサガオになるとおもいます。

葉の色が変わってきたあさがお、花を咲かせなくなってきたあさがおに気づき、心配になる姿、あさがおのいのちの終わりを意識し始めている姿、終わりを感じつつも「元気に咲いてほしい」「生きてほしい」と願う姿、きれいに咲くと信じる姿、とれた種からその先を見ようとする姿があります。

「またこんど、かれないでほしい。あと、元気にさいてほしい」と綴ったＭさんは、夏休み明けから一度も花が咲いていません。友だちが「久しぶりに咲いた！」と喜ぶかたわらで、「私のあさがおは、もう咲かない」と何度も言っていました。それでもＭさんは、毎日自分のあさがおを見ます。

ある日、Ｍさんと一緒にあさがおを見ると、小さなつぼみが３個できているのを発見しました。私がうれしくなって「咲くよ！咲くよ！」と言うと、Ｍさんは声を上げることなく、小さなつぼみを見ていました。その表情は少し明るくなっていたように思います。このときのＭさんは、夏休み明けから咲いていないわたしのあさがおが、本当にもう一度咲くのかと、まだ信じられなかったのかもしれません。「またこんど、かれないでほしい」という言葉を見たときに、そう思いました。この言葉の裏には、「またかれてしまって、さかないかもしれない」という不安があるように思えたからです。「あと、元気にさいてほしい」の「あと、」という言葉から、Ｍさんにとって、花が咲いてほしいという思いよりも、枯れないでほしいという思いの方が強いのではないかとも感じました。

つぼみの発見から毎日つぼみの様子を見守っているＭさん。昨日、「ぐるぐるの色が出てきた」と声を上げました。私も覗いてみると、つぼみが少し開き、花の色が見え始めていました。いよいよ咲きそうだと、Ｍさんは、花が咲くことを信じ、期待に胸を膨らませたのではないかなと思います。

つるがあまり伸びなくなり、葉も減る中、それでも小さな葉をつけ、小さな花を咲かせるあさがお。花は咲かずとも緑でいるあさがお。赤ちゃんを生むあさがお。生きようとする生命力を感じています。あさがおのいのちの終わりを意識しながらも、まだ咲いてほしい、生きてほしいと願う子どもたち。これからのあさがおも見つめていきたいと思います。

「それはいや」

12月中には、あさがおは一旦終わりに。当初、私はそう思っていました。私のこれまでの経験や知識から、あさがおは11月頃には枯れてしまうだろうと考えていたからです。しかし、予想外のことが起きています。

季節の移ろいによって気温が下がるにつれ、つるが伸びなくなり、咲かせる花も小さくなっていったあさがおでしたが、11月に入っても完全に枯れるということはありませんでした。柳澤さんに教えていただいた通り毎週液肥をやってきたこと、雨や風から守ってきたこと、気温を見て教室に入れたり、日光のよく当たる場所に移動したりして寒さをしのいできたこと、アブラムシと戦ってきたことなどが功を奏したのだと考えています。そうしてきた子どもたちの内には、「生きてほしい」という願いがあったように思います。小さな葉が出てきたことや新たに蕾をつけたことを見つけて「嬉しい」と言い、「あさがおが頑張っている」と捉えていた子どもたちは、生きているということを感じて、それが喜びになっていたような気がします。

2022.12

しかし、11月は踏ん張ったあさがおも、12月の本格的な冬の訪れと共に、そのほとんどが枯れてしまいました。一年草植物としては仕方のないことなのですが、そんな中、まだ緑の葉をつけ、生きているあさがおがあります。その内の一つが、Ｉさんのあさがおです。Ｉさんは、今月のあさがお日記にこんな言葉を綴っていました。

今日、あさがおを見てみました。なんかきのうより、はのようすがかわっていました。きのうは、小さかったはが大きくなりました。がんばったんだと思います。

今日、あさがおを見てみたら、大きいはができました。うれしかったです。あさがおは、こういってました。「まだまだ生きるよ。」といいました。きっと、まだそだつんだと思います。

今日、あさがおを見たら、小さいあさがおがきのうよりへんかしていました。どこかというと、はのりょうが１こおおくなっていました。あさがおは、ふゆでも生ちょうするんだなとおもいました。あさがおの力はすごいとおもいました。

以前から、「１月まで生きてほしい」と繰り返し話していたＩさん。頑張って生きようとするあさがおを感じ、そのすごさを感じ取っていったことが分かります。

「冬休み、あさがおどうするの？」という声がクラスであがっていたとき、Ｉさんに話を聞いてみました。私が「持ち帰る？学校に置いていく？」と尋ねると、「それはいや」と学校に置いていくことに対して即答でＮｏが返ってきました。持ち帰った後の置き場などに悩みながらも、置いていくことはできないと決めている様子でした。Ｉさんにとって、あさがおが、離れたくない存在になっていることを感じました。もしかしたらそれは、年をとったあさがおに終わりが近づいていることを分かっているからなのかもしれません。